

● 会社マスターを部門や支店として運用している場合

現状の問題点は何か

注釈) 合併処理とは連結合併のことではありません

- ・ 部門間取引を、本支店仕訳で処理するため、マスター別に入力が必要になりデータが2倍の入力になる。それに従い仕訳伝票も2倍になる。
- ・ 全社の試算表を出すには、合併マスターに仕訳の抽出転記が必要になる。
- ・ 合併元、合併先の選定と、月次処理で月次を合わせるという処理が必要になる。
- ・ 最後はオラクル投入を各マスター分行う必要がある。
- ・ 仕訳の追加修正や月次を間違えて転記してしまう、手順を誤り数字がおかしくなる事もある。その場合合併処理はやり直しになり、各マスターから各々抽出転記処理を行いオラクル投入まで完結させる。
- ・ 各マスターの情報は即時に合併マスターには反映されず、シミュレーション的に利用するのが難しい。
- ・ 繰越利益をマスター別に修正が必要になる。(配当などの利益処分)
- ・ 消費税一括振替がマスター別に処理が必要になる。
- ・ 合併処理(抽出転記処理)をしないと合算した資料が出てこない。(各マスターのデータは即反映されない)

現在の合併処理は、これらの工数のかかる作業を月次または定期的に行っているかと思いますが、処理手順が合っているときは良いのですが、誤った事をするると更にやりなおす工数も発生する可能性が高くなります。